

令和7年度 県立神戸工業高等学校 学校評価シート(1月) 集計表

No	教育目標	分掌	実践目標	取組内容と評価指標	取組結果	人数					平均	増減	9月の平均	増減	昨年1月の平均
						A	B	C	D	計					
1	基礎学力を向上させ、個性を伸張する	教務	教育課程	カリキュラム委員会で各教科からの意見を積極的に収集し、より本校生徒にあう教育課程の編成を行う。	カリキュラム委員会の議題に上げたが、本年度は改善点はありません。	26	13	8	1	48	3.33	- 0.06	3.39	- 0.20	3.53
2		生徒指導	安心して学べる環境づくり	生徒指導部による校内巡視に加えて、先生方のご理解ご協力の下、各学年で巡回指導や有事の際は特別巡視週間を設けて、問題行動抑止に努める。	先生方の協力を得て生徒への注意喚起がいきなり、問題行動の抑止し繋がっているとおもいます。ただなかなか指示に従わない生徒もいるので、今後の課題になります。	19	18	8	3	48	3.10	- 0.20	3.30	- 0.56	3.67
3		進路指導	キャリア教育の推進	各学年と連携し、キャリアノートを実際に使用したキャリア教育を年間2回実施する。	各学年によってパラツキはあるが、1～2回の指導はできた。(これから実施予定も含む)	18	16	13	1	48	3.06	+ 0.08	2.98	- 0.13	3.20
4		保健	規則正しい生活習慣	昇降口で、生徒への挨拶・声かけを行う。	生徒登校日は毎日昇降口に立ち、挨拶・声掛けを行った。	38	9	1	0	48	3.77	+ 0.18	3.59	+ 0.01	3.76
5		図書情報人権	ICTの授業での活用	生徒用タブレットや、教育用クラウドのIDの管理を円滑に行い、授業での活用のサポートを行う。	生徒用のタブレットは一人一台ずつの貸し出し体制となり、生徒は自分の番号のタブレットをきちんと使用できている。	27	16	4	1	48	3.44	+ 0.09	3.35	- 0.17	3.61
6		学科	資格・検定の補習の実施	建築:各種検定に応じて全体・個別補習を実施し資格取得をサポートする。 機械:技能検定・特別教育等のために個別補習や講習会を行っている。 電気:電気工事士取得に向け、始業前、放課後の時間を利用して行う。 情報技術:放課後を活用し、国家試験や検定試験の受験を目指して補習を希望する生徒に実施する。	建築:資格・検定にチャレンジする生徒が少なくなっているが、資格・検定ごとに授業前や放課後に補習を実施するなどして個に対応したサポートを行った。 機械:資格取得のため始業前、放課後に希望者には補習を行えるようにした。初級CAD検定4名合格、基礎製図検定4名合格する事が出来た。 電気:始業前、放課後、長期休業中を利用して電気工事士と基本情報技術者試験の補習を実施した。電気工事士は、下期の実技試験で第一種電気工事士1名、第二種電気工事士1名が合格した。基本情報技術者試験は、1月末に受験予定である。 情報技術:検定試験の受験に向けて、放課後に補習を実施した。	34	10	2	2	48	3.58	+ 0.06	3.52	- 0.14	3.73
7		学科	わかりやすい授業の展開	建築:生徒の理解度を把握し、適宜補助教材・資料、パワーポイント資料を作成、資料の配布やプロジェクターでの表示などをおこない、理解度を深める。 機械:生徒の学力に合わせ副教材・プリントを利用して、基礎的な知識の向上をはかる。 電気:教科書以外に自作プリント等を活用し、基礎基本から応用まで個々に応じた指導を行う。 情報技術:理解しやすくするために、ICTを適切に活用した授業を実施する。 国語:図や写真などの視覚支援を充実させながら、生徒の語彙力および思考力、判断力、表現力の伸長を図る。 地歴公民:生徒の資質・能力を育むために必要な問いの研究と適切な資料の活用を心がける。 数学:生徒の実態に合わせ、小・中学校の復習から徐々にステップアップできるように授業を展開する。 理科:ICT機器を活用し、視覚的に事物・現象を捉えさせることで、科学的な見方や考え方を身に付けさせる。 保健体育:生徒の実態を把握し、段階的な授業を展開する。また、ICT機器等を活用し、学習に対する意欲を高められるようにする。 英語:生徒の実態に合わせた授業プリントの作成、ICT機器を活用して生徒の意欲を引き出す授業の展開を通じて基礎学力の向上を図る。 家庭:生徒の実態に即した教材を作成し、基礎的な知識の向上を図るとともに実生活で応用・活用ができるようにする。	建築:各授業の主担当が生徒の状況を把握しながら理解してもらえるために補助教材・資料、パワーポイント資料などを新たに作成したり、適宜ブラッシュアップしていた。 機械:副教材・プリントを使用し生徒に分かりやすく基礎的な知識の向上を図る事が出来た。 電気:タブレット端末を利用してわかりやすい授業に努めた。特に、電気に関する現象を効果的に捉えさせることができた。個々に応じた学習指導を根気強く行い、学習意欲を高めることができた。 情報技術:ICT機器を活用して、生徒にとって理解しやすい授業を実施した。 国語:視覚支援の充実に努め、日常生活と地続きの発問・授業展開を心がけるなど、生徒の語彙力および思考力、判断力、表現力の伸長に資する取り組みが出来た。 地歴公民:生徒の思考を促せるよう発問や授業展開を工夫しながら、精選した資料や生徒自身の疑問を活かして、丁寧かつチャレンジングに取り組むことができた。 数学:生徒が躓いている小・中学校の学習を振り返りながら授業を進め、わかりやすい授業の展開に努めた。 理科:限られた時間内において、ICTを駆使することで科学の事物・現象を視覚的に捉えさせ、科学的思考を育んだ。 保健体育:生徒の実態に応じ段階的な指導を取り入れた授業を展開することができた。保健、体育両方の授業において場面に応じてICTを活用し意欲の向上や、わかりやすい授業展開に努めた。 英語:生徒の実態に即した教材を作成することができた。場面に応じてICT機器を積極的に使い、生徒の意欲的な授業参加を促し、基本的な英語能力の向上に努めた。 家庭:生徒の実態に応じた教材を作成し、基礎的な知識の向上を図ることができた。実習や体験活動を増やして、学習意欲の向上に努めた。	33	12	3	0	48	3.63	- 0.01	3.63	+ 0.04	3.59

No	教育目標	分掌	実践目標	取組内容と評価指標	取組結果	人数					平均	増減	9月の平均	増減	昨年1月の平均
						A	B	C	D	計					
8	基礎学力を向上させ、個性を伸ばす	学年	基礎学力向上のため、生徒の状況把握	1年:SHR等を活用して、生徒の意欲や実態に応じた基礎学力の向上を図る。 2年:SHRやLHR等を活用して、生徒の意欲や実態に応じた基礎学力の向上を図る。 3年:家庭との連携を密にし、学年会議等で情報を共有し、協力して対応する。 4年:学年団や教科担当との密な情報共有により、生徒個々に必要な取り組みを実施する。	1年:授業の取り組みの大切さを理解し、基礎学力の向上に努めた。 2年:教科担当と連携し、生徒の実態に応じた課題に取り組ませることで学習意欲の向上に努めた。 3年:欠席、早退、遅刻などの情報を家庭と共有し生徒を見守ることができた。 4年:学年団や教科担当と情報共有を行い、生徒個々に必要な取り組みを実施することができた。	24	17	6	1	48	3.33	- 0.17	3.50	- 0.12	3.45
9		総務	学校行事の実施	各行事が円滑に実施できるよう計画・調整・準備を進める。	各分掌と協力して、学校行事を円滑に実施できた。	32	13	3	0	48	3.60	+ 0.02	3.59	- 0.06	3.67
10		生徒指導	スマホ・SNSの適切な利用とコミュニケーション力の向上	インターネットやスマートフォンの適切な利用については専門家と連携しながら情報をアップデートする必要がある。(本年度は10月17日に講演会を実施予定)	SNSやスマホの利用については、今までにさまざまな視点から指導してきた結果、大きなトラブル等はなくきている。	25	19	3	1	48	3.42	+ 0.24	3.17	- 0.17	3.59
11		生徒指導	規範意識の向上	生徒会の取組みとして、目標の設定や生徒への呼びかけ、校内掲示等を行う。	新たな目標は掲示していないが、生徒会執行部が目標をもって活動に取り組んでいる。	22	18	8	0	48	3.29	+ 0.05	3.24	- 0.30	3.59
12		進路指導	職業観の育成	企業や産業を知るため会社見学や企業ガイダンスを企画・実施する。 *会社見学12/22, 企業(進路)ガイダンス3/3	会社見学会は実施済み。 企業(進路)ガイダンスは3月3日実施で計画中。	25	17	6	0	48	3.40	+ 0.24	3.15	- 0.02	3.41
13	社会性の涵養をはかる	学科	実習で培う協働	建築:建築技術者として必要なコミュニケーションスキルが身につくように高学年でグループ実習を実施する。 機械:工具の整理・実習室の清掃・安全確認をグループで行っている。 電気:班を形成し、班の一員としての責務を果たせるよう取り組む。 情報技術:グループでの分担や協働による作品の制作に取り組む。	建築:各学年の生徒数が少なく中々グループ学習が難しくなっているが、授業の内容に応じてグループ実習を様々な内容で実施できた。 機械:グループで行うことで、工具の整理・実習室の清掃・安全確認を個人で行うよりさらに、正確、確実に行う事が出来た。 電気:実習内容によりグループワークを実施した。生徒自ら役割分担を行い班員が協力して実習を行うことができた。 情報技術:協力しながら学習課題をやり遂げ、学習内容の理解を深めることができた。	33	12	3	0	48	3.63	+ 0.17	3.46	- 0.12	3.75
14		学年	学校行事におけるクラスの協働	1年:各行事を通じて、一人一人に役割を持たせ、他者と協働する態度を育成する。 2年:各行事を通じて、一人一人が自分の役割を自覚し、他者と協働する態度を育成する。 3年:各行事を通じて、クラスや学年内で協力する精神を養う。 4年:各行事において、個々の生徒に役割を持たせ、協力して取り組ませる。	1年:校外学習・体育祭・球技大会などを通じて、集団の一員として行動を考える力を養うことができた。 2年:体育祭や学年レクリエーションなどを通して、他者と協働する態度を育成することができた。 3年:体育祭や球技大会、修学旅行等を通じて他者と協力する力を養うことができた。 4年:協力して取り組ませることができなかった行事もあり残念であった。	26	20	2	0	48	3.50	- 0.07	3.57	+ 0.07	3.43

No	教育目標	分掌	実践目標	取組内容と評価指標	取組結果	人数					平均	増減	9月の平均	増減	昨年1月の平均
						A	B	C	D	計					
15	人権を尊重し、命を大切に する心を育てる	総務	防災教育・避難訓練	火災・津波・高潮等を想定した避難訓練を年2回実施し、生徒・職員の防災意識・危機管理意識の向上を図る。	7月に火災想定の高所避難訓練、12月には地震津波高潮想定の高所避難訓練を実施した。また、9月には大規模災害や緊急時における生徒・保護者・職員の安否確認訓練を初めて実施し、防災意識の向上を図ることができた。	38	9	1	0	48	3.77	+ 0.21	3.57	±0.00	3.67
16		図書情報人権	人権教育(いじめ防止や心の教育)	いじめ防止や心の教育等、人権意識を高める内容の講演会や、人権LHR(年1回以上)を行う。	就職採用試験時の面接に関する人権に関する動画視聴を12月に行った。	28	16	3	1	48	3.48	+ 0.24	3.24	- 0.21	3.69
17		保健	健康教育	健康教育の充実を図るために、保健だよりを月に1回(年11回)発行する。	計画通り毎月1回保健だよりを発行することが出来た。	38	8	2	0	48	3.75	+ 0.25	3.50	+ 0.02	3.73
18		保健	心の健康	学年・科・キャンパスカウンセラーとの連携を密に行い、生徒や保護者の個々の状況に応じた適切な対応に努める。	担任・キャンパスカウンセラーとも連携しながら、教育相談に繋げることが出来た。	34	12	2	0	48	3.67	+ 0.21	3.46	+ 0.04	3.63
19		図書情報人権	情報モラルの啓発及び定着	各部や学年と連携し、生徒の情報モラルに対する意識を高めさせる。	生徒のIDやパスワードの管理、タブレット端末の管理や教育用クラウドサービスの利用について学年と協力して行うことができた。	24	19	4	1	48	3.38	+ 0.09	3.28	- 0.06	3.43
20	学科	事故防止に向けた安全教育の実施		建築:各実習授業時に使用材料・工具等の取扱いに触れながら安全教育を実施する。 機械:各学年実習の授業で安全心得などの冊子を使い事故の事例や安全教育を行っている。 電気:安全な技能活動の習得を目指し、点呼時に本時の危険箇所の注意喚起を促す。 情報技術:作業ごとに工具などの正しい使い方や注意すべき事柄を説明し、安全に留意して作業することを徹底する。	建築:各学年の実習授業で全体、個別ともに随時適切なタイミングで実施した。 機械:事故の事例や安全教育を行い、ケガや事故防止につとめ実習安全に努めた。 電気:毎時間、授業の始めに実習内容と危険箇所の注意喚起を促した。実習における正しい服装や工具の取り扱いおよび電気機器の取り扱いについての安全教育を実施し、事故防止と実習安全に努めた。 情報技術:作業ごとに注意することを説明して安全に授業を行うことができた。	36	8	4	0	48	3.67	+ 0.19	3.48	- 0.02	3.69
21		学年	修学旅行・遠足・体育祭等学年として協力する態度の育成	1年:各行事を通じて、自他の違いを認め、相手を思いやり行動できる態度を育成する。 2年:各行事を通じて、自他の違いを認め、相手を思いやり協力する態度を育成する。 3年:修学旅行や各行事を通して、自他の違いを理解し、相手を尊重し協力する態度を育成する。 4年:各行事を通して、人権の尊重と命の大切さを学ぶ。	1年:校外学習・体育祭・球技大会などを通じて、集団の一員として行動を考える力を養うことができた。 2年:体育祭や学年レクリエーションなどを通して、相手を思いやりながら行動できる態度を育成することができた。 3年:体育祭や球技大会、修学旅行等を通じて他者を尊重し協力する力を育成することができた。 4年:人権HRなどを通して、人権の尊重と命の大切さを学ぶことができた。	32	15	0	0	47	3.61	+ 0.05	3.57	±0.00	3.59
22	学校運営	教務	研究授業・公開授業	公開授業週間および研究授業を実施する。研究授業後には意見交換の場を設定し、授業力を高める。	ともに実施することができた。各教科に依頼し、授業後の研究協議の実施もできた。	28	16	4	0	48	3.50	+ 0.17	3.33	- 0.11	3.61
23		教務	教育課題への取り組み	現在の教育課題にそった校内研修会を実施する。	実務的な研修会(百問繚乱)は開催できたが、教育課題にそった研修会は実施できなかった	17	20	8	3	48	3.06	- 0.20	3.26	+ 0.16	2.90
24		図書情報人権	人権研修会の実施	外部講師を招いて人権に関する職員研修会を年1回以上行い、様々な人権課題に対する知見を広め、意識啓発を図る。	人権に関する職員研修会は実施できなかった。	14	13	10	11	48	2.63	- 0.40	3.02	- 1.00	3.63

No	教育目標	分掌	実践目標	取組内容と評価指標	取組結果	人数					平均	増減	9月の平均	増減	昨年1月の平均
						A	B	C	D	計					
25	学校運営	保健	AED・心肺蘇生法	教職員応急手当講習会(年1回)を実施する。	5月に職員応急手当講習会を実施した。	34	12	1	1	48	3.65	+ 0.19	3.46	- 0.10	3.75
26		総務	学校案内・広報活動	オープンハイスクールや学校見学を随時受け多くの人に本校の魅力を知ってもらう。学校案内パンフレットや紹介動画で生徒達の学校生活での各取組みを各関係部署と連携して広報活動に取り組む。	学校案内・PR動画の更新、中学校教員向け説明会、オープンハイスクール、学校見学の随時受入れに対応できた。 また、文部科学省から募集依頼のあった「専門高校等の魅力発信に係る動画」へのInstagram投稿で生徒達の学校生活を発信できた。	33	12	3	0	48	3.63	+ 0.21	3.41	- 0.00	3.63
27		生徒指導	立ち番や巡回指導の実施	担任教師以外の職員による校門指導を組織すると共に、生徒への声掛けや挨拶を、職員からも意識して行うようにする。	全職員の協力もと、年間をとおして校門指導・声掛けや挨拶が出来ている。	28	14	6	0	48	3.46	+ 0.05	3.41	- 0.25	3.71
28		生徒指導	特別指導の情報共有と連携	特別指導事案を職員打合せ等で情報共有するとともに、必要に応じて担当者会議を行い、情報共有と連携指導が行えるようにする。	現状に満足するのではなく、指導部会を利用してもっと情報共有や各学年と連携を密にし、生徒の細かな指導を行いたい。	20	16	10	2	48	3.13	- 0.11	3.24	- 0.46	3.59
29		生徒指導	生徒会活動(生徒会行事と部活動等)の実施	生徒会役員や他の生徒たちが活躍できる生徒会行事を、年3回以上行う。	体育祭、球技大会など全校生徒が活躍できる生徒会行事を3回以上実施できた。また、生徒会役員は小学校親子工作教室の補助、FM収録、福祉施設訪問等、外部機関との関わりを持ち活躍の場を増やすことできた。	32	13	2	1	48	3.58	+ 0.15	3.43	- 0.14	3.73
30		進路指導	進路講演会・ガイダンスの実施	進路講演会および進路ガイダンスを年1回実施する。*進路講演会12/23,進路ガイダンス3/3	進路講演会は実施済み。 進路ガイダンスは3月3日実施予定で計画中。	25	17	6	0	48	3.40	+ 0.13	3.26	+ 0.00	3.39
31		保健	身体計測・諸検診の滞りない実施	健康診断を円滑に実施し、受診報告のない生徒については、2学期に再度受診勧告を行い受診を促す。	健康診断を円滑に実施できた。受信報告がない生徒についても、再度受診勧告を行い、受診を促した。	35	11	1	1	48	3.67	+ 0.23	3.43	+ 0.06	3.61
32		図書情報人権	ICTの円滑な活用のサポート	校務用パソコン、NASの管理を日々行い、校務が円滑に行えるようにサポートを行う。	校務用パソコンや、指導者用タブレットの保守管理を円滑に行うことができた。 また、不調なパソコンに対するサポートも円滑に行うことができた。	31	13	3	1	48	3.54	+ 0.09	3.46	- 0.18	3.73
33	学校運営	図書情報人権	学校Webページの活用	多くの職員にWebページに書き込んでもらえるような体制をつくり、生徒にもっと見てもらえるような学校Webページを目指す。	行事報告等を各学年ブログを利用して書き込んでもらうことができた。	27	14	4	3	48	3.35	+ 0.27	3.09	- 0.06	3.41
34		学年	学校行事・LHRの滞りない運営	1年:学校行事や年間LHRを計画的に実施し、円滑に学年を運営する。 2年:学校目標や学年目標を達成できるように学校行事やLHRを計画し、計画に沿って円滑に学年を運営する。 3年:年間行事計画に沿って、修学旅行や学校行事に向けた活動を計画的に実施し、円滑に学年を運営する。 4年:年間行事計画に沿って進路などのLHRを計画的に実施する。	1年:年間計画に沿って、円滑に学年を運営することに努めた。 2年:年間計画に沿って、校外学習やLHRを円滑に実施することができた。 3年:年間行事計画に従って、遠足・修学旅行等の各行事に積極的に取り組めた。 4年:年間行事計画に沿って進路などのLHRを計画的に実施することができた。	34	12	2	0	48	3.67	+ 0.08	3.59	+ 0.08	3.59